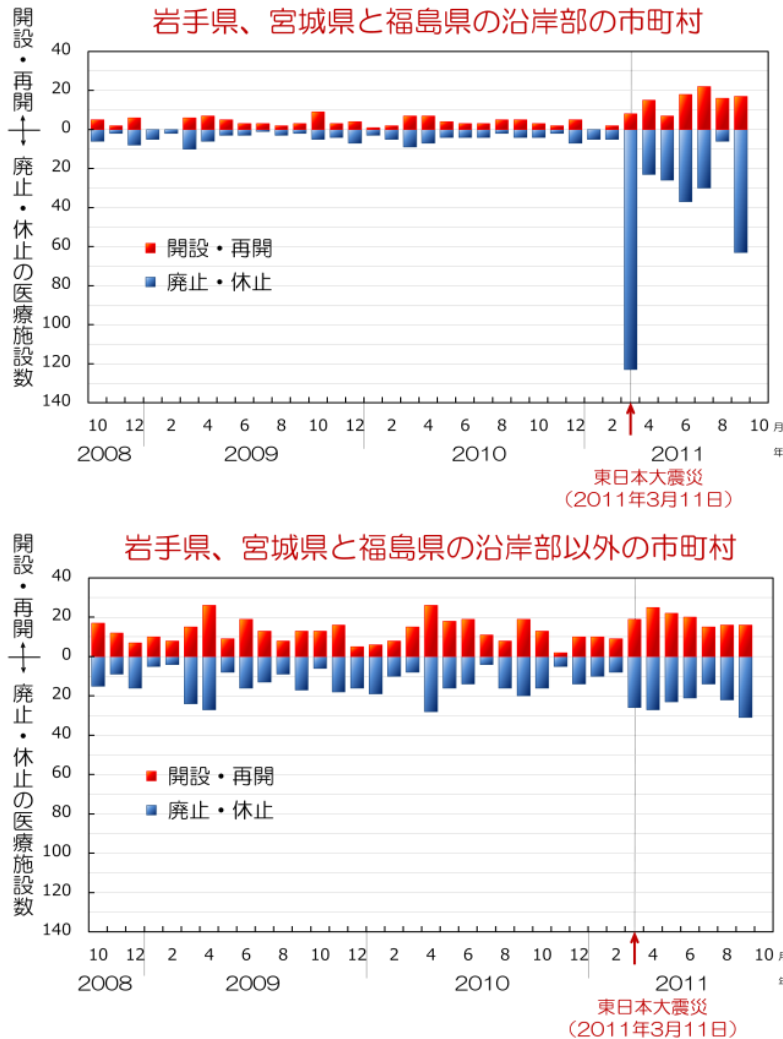


「東日本大震災前後の医療施設の状況」

東日本大震災は、地震と津波により、岩手県、宮城県と福島県を中心に甚大な被害をもたらしました。医療施設の建物や設備に対する大きな被害が報告されており、被災地の医療供給体制へ大きな影響を与えたと指摘されています。ここでは、医療施設調査のデータを用いて、岩手県、宮城県と福島県の3県における東日本大震災前後の医療施設の廃止・休止状況を観察・評価しました。

図に、岩手県、宮城県と福島県の3県について、沿岸部の市町村と沿岸部以外の市町村における医療施設の廃止・休止の状況を示します。3県の沿岸部の市町村では、通常の廃止・休止数を上回った、震災による超過の廃止・休止医療施設数は約250施設（震災直前の医療施設の12.3%）、その在院患者数は約2,140人/日（11.2%）、外来患者数は約8,840人/日（11.3%）と推計されました。一方、3県の沿岸部以外の市町村では、震災後の超過の廃止・休止医療施設数、在院患者数と外来患者数は、震災直前の医療施設の1.2%、0.1%と0.8%と見積もられました。

図. 岩手県、宮城県と福島県の3県における震災前後の廃止・休止の医療施設数



以上、岩手県、宮城県と福島県の3県の沿岸部の市町村では、東日本大震災後に医療施設の廃止・休止が著しく増加し、その超過分は震災直前の医療施設の10%を超えると推計されました。

（「川戸美由紀，三重野牧子，村上義孝，山田宏哉，橋本修二．医療施設調査に基づく東日本大震災前後の医療施設の廃止・休止状況．厚生学の指標，2015；62(3)：39-43」を参照）

（川戸美由紀）